

第 7 8 回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2 0 0 0 年 1 2 月 1 9 日（火） 1 0 : 3 0 ~ 1 1 : 1 0
2. 場 所 委員会会議室
3. 出席者 藤家委員長代理、依田委員、遠藤委員、木元委員
 （事務局等）科学技術庁
 原子力局
 小中審議官
 原子力調査室 伊藤室長、千原補佐、山越、河合
 廃棄物政策課 青木企画官、佐々木調査員
 埼玉工業大学先端科学研究所 石樽教授
4. 議 題
 （1）原子力バックエンド対策専門部会報告書「ウラン廃棄物処理処分の基本的考
 え方について」について
 （2）その他
5. 配布資料
 資料 1 - 1 ウラン廃棄物処理処分の基本的考え方について
 資料 1 - 2 「ウラン廃棄物処理処分の基本的考え方について（案）」（平成 1 2 年
 1 0 月 6 日原子力バックエンド対策専門部会）に対するご意見と回答
 資料 1 - 3 「ウラン廃棄物処理処分の基本的考え方について（案）」（平成 1 2 年
 1 0 月 6 日原子力バックエンド対策専門部会）に対するご意見 （寄せ
 られた意見をそのまま複写したもの）
6. 審議事項
 （1）原子力バックエンド対策専門部会報告書「ウラン廃棄物処理処分の基本的考え方につ
 いて」について
 標記の件について、石樽教授より資料 1 - 1 に基づき説明があった。これに対し、
 先日の専門部会ではきめ細かいコメントが出されていたが、最終報告書の 内容に関係
 者は満足しているか。
 （石樽教授）頂いたコメントは反映しており、そう思う。

ウラン廃棄物は、他の廃棄物と少し性格が異なり、採ってきたもので使えないのを残すものという感じである。それが一般の人にどれだけ理解してもらえるのかという問題がある。ウラン鉱山との関係はどうか。

（石樽教授）一般の人からも意見が寄せられていて、議論になった。基本的には、残渣は鉱山保安法が適用されることとなっている。それらに関する対応については、資料1－2の回答に詳しく記載されている。

精錬ウラン廃棄物との関係では、人形峠の件や燃料加工工場もある。

（石樽教授）海外調査を行った際にも気にしたことだが、イギリスはウラン鉱山がない。フランスは、取り出してきた廃坑を安定強化して戻すことを検討している。ただし、最終の案ではない。

ウラン廃棄物の放射能がなぜ減衰しないのかは、一般の人にはわかりにくい。

（石樽教授）この資料の中を見て頂ければわかると思う。

本件は大事なことなので、いずれ委員会決定したい。

等の委員の意見及び質疑応答があった。

（２）議事録の確認

事務局作成の資料2の第76回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。

なお、事務局より、次回は12月22日（金）に臨時会議を10：30より開催する方向で調整したい旨、発言があった。

以上